

検討の経緯と 計画段階へのステップアップ

- 1.松山駅交通拠点機能強化の検討経緯
- 2.バスタプロジェクトの事業プロセス
- 3.検討範囲
- 4.松山駅交通拠点機能強化整備方針
- 5.事業計画で検討すべき事項

1. 松山駅交通拠点機能強化の検討経緯

シンポジウム(2022.3.30)

松山の新たな駅まちづくり

第1回検討会(2022.5.17)

松山駅交通拠点機能強化検討会の設置

- ・ 松山市の交通の現状とまちづくり

第2回検討会(2022.9.26)

- ・ 検討範囲
- ・ 交通結節点整備の方向性
- ・ 大手町通りニーズ調査

第3回検討会(2023.3.16)

- ・ 交通結節機能強化の方向性
- ・ 空間活用の考え方(両拠点間のアクセス強化の方向性)
- ・ 各機能の考え方
- ・ 管理・運営手法

第4回検討会(2023.7.12)

- ・ 松山駅交通拠点機能強化整備方針(案)

第5回検討会(2023.10.17)
※書面開催

- ・ 松山駅交通拠点機能強化整備方針(案)

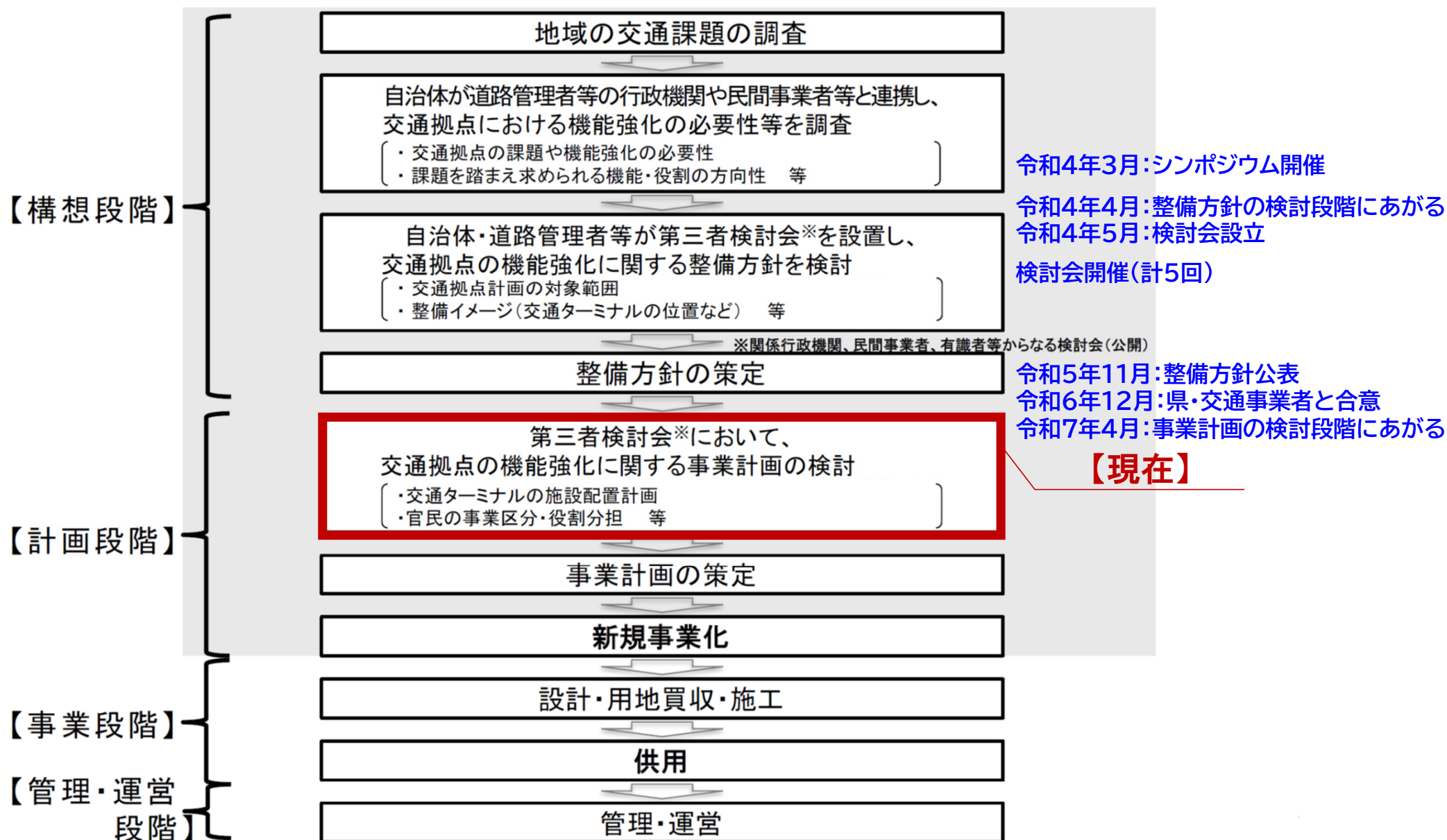
(2023.11.17)

整備方針の策定

第6回検討会(2025.7.16)
本 日

- ・ 事業計画策定に向けた論点整理

2. バスタプロジェクトの事業プロセス（松山の検討状況）



- 検討範囲は、「JR松山駅東口駅前広場を含む駅に隣接した街区と、駅前的大通りとなる大手町通りを含めたエリア」とする。但しJR松山駅と松山市駅間の千舟町通り、花園町通りなど検討に必要な路線は議論に含む。
- 計画の具体化に際しては、松山ならではの特徴を活かすため、松山市駅や道後をはじめとする都市機能施設や観光拠点等との連携も考慮しながら検討を進める。



4. 松山駅交通拠点機能強化整備方針

松山駅交通拠点機能強化整備方針

国土交通省
愛媛県
松山市

四国の玄関口である JR 松山駅周辺では、鉄道の高架化にあわせて、土地区画整理事業や街路事業などを行い、土地利用の増進や交通環境の改善のほか、賑わい、交流を生む駅まち空間の形成を図っているところです。

そのような中、交通拠点の整備にあたっては、急速に進行する人口減少社会における地域公共交通の維持・活性化や、将来の大規模災害への備え、新たなモビリティサービスへの対応など、より未来志向に立った取組みが強く求められ、これまで以上に、交通・交流・防災などの機能の強化を図る必要があることから、国土交通省、愛媛県及び松山市は、「松山駅交通拠点機能強化検討会」での議論を踏まえ、次のとおり、「松山駅交通拠点機能強化整備方針」を取りまとめました。

1. 交通モード間の接続(モーダルコネクト)の強化

- ・ 点在するバス、タクシー、一般車の乗降場・待機場・短時間駐車場などを集約するとともに、貸切バスなどの乗降場を確保し、鉄道や路面電車、シェアモビリティなどを含め、多様な交通モード間の接続(モーダルコネクト)の強化を図ります。
- ・ 次世代モビリティサービスや四国新幹線なども含めた、将来のモビリティに関する様々な可能性に対応できる柔軟性のある交通結節点整備を図ります。

2. 駅周辺地区の交通円滑化

- ・ 鉄道高架や土地区画整理事業で、創出される道路基盤を生かし、公共交通の定時性・速達性の確保や高速バスの増便、次世代モビリティの導入を図ります。
- ・ 全国の主要な都市とつながり、四国の玄関口となる広域の交通拠点「松山駅」、中心市街地と郊外を結び、市民の日常的生活を支える地域の交通拠点「松山市駅」、それぞれの担う役割に応じた交通拠点を形成するとともに、両拠点間のアクセス強化を図ります。
- ・ 駐車場の適切な配置により、駅利用の利便性を向上するとともに、自家用車から公共交通や徒歩へ、交通モードをスムーズに転換し、中心市街地への過度な自家用車流入を抑制します。
- ・ 駅前広場への乗り入れ集中や荷捌き車両の影響により、周辺道路の大手町通りや国道において速度低下が発生しており、バスターミナルの整備や大手町通りなどの機能を強化することで交通円滑化を図ります。

3. 移動利便性・回遊性の向上

- ・ 次世代モビリティサービスの導入などにより、多様なモビリティの選択が可能な拠点整備を図り、現在、公共交通でのアクセスが容易でない施設や観光地であつても来訪しやすい都市の移動環境を創出します。
- ・ 訪日外国人を含む観光客やビジネス客などへの移動案内の充実や待合空間の確保など、利便性向上や地域の魅力発信を図ります。
- ・ 駅前広場や大手町通りなどの周辺道路における賑わい・憩い空間の創出や回遊性向上、中心部と郊外・県外とのアクセス向上により、松山の歩いて暮らせるまちづくりを推進します。
- ・ 県内各地の魅力の一端を感じられるよう、地域の素材を活用しながら、県都松山の陸の玄関口にふさわしい景観形成を行い、駅周辺の建物や道路、広場などが調和した、一体的な駅まち空間を創出します。

4. 防災機能の導入

- ・ 災害時や運転見合わせ時において、交通拠点に滞留する帰宅困難者の受入れ、支援物資提供のための物資備蓄空間(機能)を確保します。
- ・ 鉄道被災時の代替交通として、支援のための人や物資を運ぶ都市間バスの発着拠点となります。
- ・ 防災教育や啓発などの場として、平時より、公民学が連携しながら、市民の防災意識や防災行動を促進します。

5. 官民連携

- ・ 公共施設の整備や管理、運営にあたり、民間事業者などが持つ豊富な知見や経験、資産などを広く活用し、効率的で効果的な施設運営を図ります。
- ・ 松山アーバンデザインセンターなどと連携し、エリアマネジメントを推進するとともに、郊外の取組みとも連携し、地域の魅力の発信や課題解決を図る場を創出します。
- ・ 公民学が連携し、先進的な技術や取組みを活用して、効率的な交通システムの構築やカーボンニュートラルな都市の実現などを目指します。

4. 松山駅交通拠点機能強化整備方針

松山駅交通拠点機能強化整備方針

ポテンシャル

- 広域交通拠点がコンパクトにまとまった都市構造
- 松山駅と松山市駅の2大交通拠点が存在
- 松山外環状道路の整備による交通ネットワーク機能の拡充
- 中心市街地に観光・文化・教育・医療・商業などの都市機能が集積
- 道後温泉や松山城など年間100万人を超える観光資源が存在
- 松山空港のターミナル地域整備による受入環境の充実・強化

課題

- 市内中心部におけるバス停留所付近の混雑や自転車動線の交錯
- 駅前広場における公共交通の待合空間の不足や乗降場の分散
- 駅前広場における乗換え、乗継ぎの歩行者動線の分断
- 通過交通による駅前交差点の混雑
- 大手町通りや国道などの周辺道路における交通阻害による速度低下
- 来訪者や地域住民が交流できる広場空間や防災機能の不足

賑わいや交流を生む駅まち空間の形成と一体的にバスターミナルを整備し、交通結節機能を強化

交通モード間の接続 (モーダルコネクト)の強化

- ・バス、タクシー、一般車の乗降場・待機場などを集約
- ・柔軟性のある交通結節点整備

移動利便性・回遊性の向上

- ・次世代モビリティ導入などで、車がなくても移動しやすい都市環境の創出
- ・観光客などへの移動案内の充実や待合空間の確保など、地域の魅力発信
- ・駅前広場や大手町通りなどにおける賑わい・憩いの空間の創出、回遊性向上などによる歩いて暮らせるまちづくりの推進
- ・地域の素材を活用した、県都松山の陸の玄関口にふさわしい景観形成

官民連携

- ・民間が持つ豊富な知見や資産などを活用した効率的・効果的な施設運営
- ・エリアマネジメントや地域デザインの推進
- ・公民学の連携による先進的な技術などの活用



駅周辺地区の交通円滑化

- ・鉄道高架や土地区画整理で創出される道路基盤の活用
- ・公共交通の定時性・速達性の確保や高速バスの増便、次世代モビリティの導入
- ・「松山市駅」とのアクセス強化
- ・適切な駐車場配置と公共交通の利便性向上による中心市街地への過度な自家用車流入の抑制
- ・バスターミナルの整備や大手町通りなどの機能強化による周辺道路の交通円滑化

防災機能の導入

- ・災害時などの帰宅困難者の受入れや、支援物資提供のための物資備蓄空間(機能)の確保
- ・鉄道被災時の代替として、支援の人や物資を運ぶバスの発着拠点
- ・防災教育や啓発による防災意識や防災行動の促進

5.事業計画で検討すべき事項

「交通拠点の機能強化に関する計画ガイドライン」での位置づけ

- 事業計画では、「交通拠点のコンセプト」、「機能・施設の規模と配置」、「事業区分と役割分担」、「スケジュール」、「将来像」などについて整理する。

